

⑤ 音読げきをしよう

木竜うるし (人形げき)

(1)

NO.1

名前	四年
	組

● 場面ごとに、出来事の大体をまとめ、藤六と権八の行動や会話から、そのときの気持ちや人物のせいかく、二人の関係などを考えて書きましょう。

一 場面

出来事

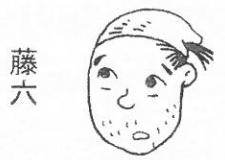
行動や会話

「こら藤六。」
 「おめえののこぎりをかせ。」
 「おらの切ったんだも、みんなおめえがして山を下りるだぞ。」
 「やい、藤六、おめえ、こんな切れるのこぎり持とるなら、おらの分も切ってくれ。」
 権八が藤六ののこぎりを返そうとして、ふちに落とす。
 など、

気持ちやせいかく

二人の関係

「あいよ。」
 「そうだなあ。おめえののこぎりや、こらだめだ。よし、そんならよこせ。」
 「おら、おそろしいわ。」
 「しかたがないわ。見つけてこよう。」



藤六



権八

五 音読げきをしよう

木竜うるし (人形げき) (1)

NO.2

名前

四年

組

場面ごとに、出来事の大体をまとめ、藤六と権八の行動や会話から、そのときの気持ちや人物のせいかく、二人の関係などを考えて書きましよう。

二・三の場面

出来事

行動や会話

藤六にないしで、木の竜を
ふちの底にすずめておく。
「今に見とれ、藤六のやつ、び
くろぎうつてん、飛び出るぞ。」
藤六がらじろくのを衆しんでいろ。
「らりなあ、あの竜はなあ、実は
おらが作った木の竜だ。」
「……ああ、おら悪いことをした。
おらがよくを出したば、かりに、こら
たいへんなことになってしもた。」

気持ちやせいかく

二人の関係

「だ、大じゃだあ。大じゃがお
たあ。」木の竜を大じゃと
間違える。

「作りもんか？ あらあ、なら
初めからそう言えばいいに。」
「木でほ、た竜が動くわけはな
いではないか。」
「まあ、ちよと来てみれらうに。」

藤六



権八

